詩篇の読み方

2024年1月6日　第1課

「それから彼らに対して言われた、『わたしが以前あなたがたと一緒にいた時分に話して聞かせた言葉は、こうであった。すなわち、モーセの律法と預言書と詩篇とに、わたしについて書いてあることは、必ずことごとく成就する』。そこでイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心を開いて言われた。」

(ルカ 24:44～46　口語訳)

「イエスは言われた。『わたしについてモーセの律法と預言者の書と詩編に書いてある事柄は、必ずすべて実現する。これこそ、まだあなたがたと一緒にいたころ、言っておいたことである。』そしてイエスは、聖書を悟らせるために彼らの心の目を開いて、言われた。」

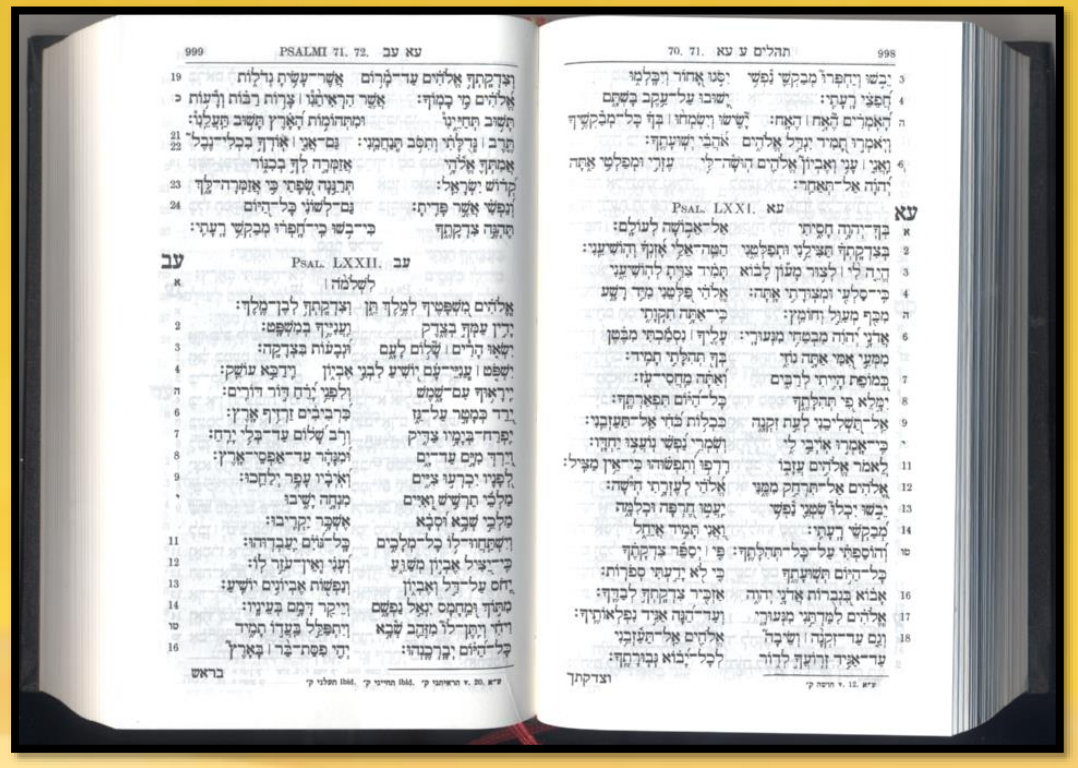
(ルカ 24:44～46　新共同訳)

詩篇をどう読むか？詩篇は、いろいろな意味で特異な書物であることを念頭に置いて読むべきである。

聖書の他の書物とは異なり、モーセに始まり、捕囚から帰還するまでの、時代も状況も異なる著者によって書かれた。

賛美、激励、嘆き、歴史……といった多様なテーマとスタイルを扱っている。

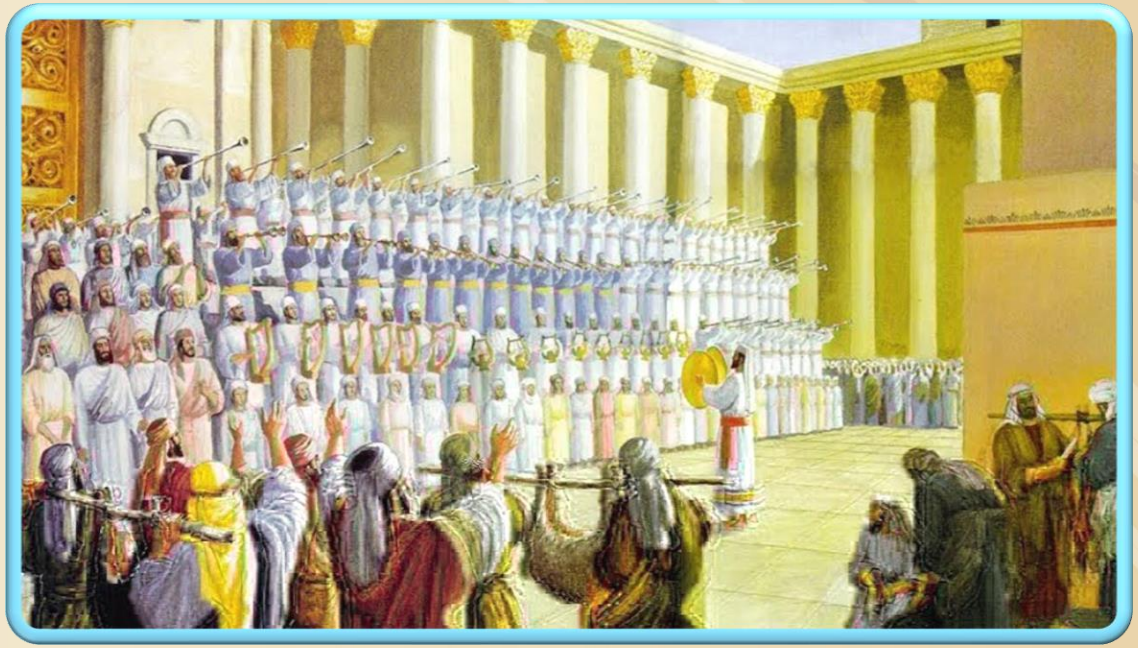
何よりも、聖霊が直接語りかけてくる霊感の書物であることを肝に銘じなければならない。



- 讃美歌集
- 著者とその経験
- テーマとスタイル
- 祈祷書
- 主人公は神

讃美歌集

「その日ダビデは初めてアサフと彼の兄弟たちを立てて、主に感謝をささげさせた。」歴下16：7



“Psalm”サームという書名はギリシャ語の“Psalmoi”プサルモイ（伴奏付きで歌われる歌）に由来し、70人訳聖書では書名となっている。ヘブライ語では“Tehillim”テヒリーム（賛美）という。

詩篇は、神殿や会堂での礼拝で歌う賛美歌として使われた。

いくつかの詩篇（9篇、45篇、88篇など）の序文には、楽器、旋律、聖歌隊の指導者について言及されている。

中には特別な場面で使われたものもある：

- 安息日（土曜日）の賛美（詩92篇）
- 年祭と新月の巡礼の時（「出エジプトの賛美」詩113-118篇、「大いなる神への賛美」詩136篇）。
- 会堂の朝の礼拝で（「日毎の賛美」詩145-150篇）

キリスト教会も詩篇を賛美歌集として採用した。(コロ 3:16、エペ 5:19).

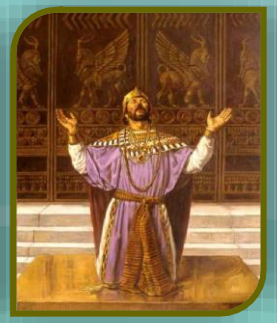
(日)
詩編のなかで、
あなたの思い出の１編は、
どれですか？

著者とその経験

「ダビデがその子アブサロムを避けてのがれたときの歌」
（詩篇3篇より引用）

- アサフとその息子たち (50, 73-83)
- コラの息子たち (42, 44-47, 49, 84-85, 88)
- エズラ人ヘマン (88, as co-author)
- エズラ人エタン (89)
- ソロモン (72, 127)
- モーセ (90)

詩篇のほとんどはダビデによって書かれた（2サム23:1）
他の作者は右の通り：



詩篇の多くは、作者の個人的な経験（私たちとよく似ている）を明らかにしている：

- 困難
- 疑問と苦しみ
- 神の赦しの経験
- 喜び
- 神の誠実さと愛に対する献身と感謝
- 神への希望
- 神の約束への信頼
- 贖罪の証
- 救いを求める叫び

(月)
なぜ詩編記者は、喜びだけでなく、
困難や苦しみについても
記録しているのですか？

テーマとスタイル

もろもろの天は神の栄光をあらわし、大空はみ手のわざをしめす。(詩篇 19:1)

詩篇には、人間の経験全体と神との関係を包括するさまざまなテーマが含まれている：

- 創造主、主権者、審判者としての神を賛美する賛美歌
- 神の豊かな恵みに感謝する詩篇
- 問題からの解放を神に懇願する哀歌
- 人生の実践的指針を示す知恵の詩篇
- 王であり解放者であるキリストを指し示す王の詩篇
- イスラエルの過去の歴史と神の誠実さを見直す歴史的詩篇

それらは詩の形式で書かれている。ヘブライ語の詩は西洋の詩とは異なる。そのスタイルには次のようなものがある：

並行法	単語、フレーズ、考えを対称的に組み合わせ、アイデアを繰り返したり、対比させたりする。	あなたの空、あなたの指の作品、あなたが形作った月と星を見るとき (詩8:3)
修辞表現	比喩表現を使う	川は手を叩き、丘は共に喜べ。(詩98:8)
メリズム	対照的な部分を通して全体を表現する	私の救いの神、エホバよ、昼も夜も、私はあなたの前で叫びます。(詩88:1)
言葉遊び	メッセージを強調するために、音の似た言葉を使う。詩96:5では、エロヒム（神々）とエリリム（偶像）の間で言葉遊びをしている	もろもろの民のすべての神はむなしい。しかし主はもろもろの天を造られた。(詩96:5)

(火)
なぜキリストも
数多く詩編を引用して、
福音書のなかで語って
おられるのですか？

祈祷書

「主よ、わが祈を聞き、わが願いに耳を傾けてください。あなたの真実と、あなたの正義をもって、わたしにお答えください。」(詩篇 143:1)

詩篇の作者たちは、個人的に神に祈りを捧げている：「わが王、わが神よ、わたしの叫びの声をお聞きください。わたしはあなたに祈っています。」（詩5：2）

詩篇では、神と人間が生き生きと交流している。祈りと賛美を通して、人間は--聖霊の霊感のもとに--希望、恐れ、怒り、悲しみ、痛みをあらわにする。読者の境遇、宗教、民族、性別を超えた感情。私たちは誰でも、一度は詩篇の内容に共感することができる。

私たちはこれらの祈りの中に、神の霊の直接的な働きを感じ取ることができる。「エッサイの子ダビデは言った：『主の霊はわたしによって語る、／その言葉はわたしの舌の上にある。』サム下23：1.2

私たちはまた、神が祈りを聞いてくださるという希望を抱いて祈る：「しかし、まことに神はお聞きになり、わが祈の声にみこころをとめられた。」（詩66:19）。

(水)
あなたの祈りと、
詩編の言葉に共通点はありますか？
または、相違点はありますか？

主人公：神

「今わたしは知る、主はその油そそがれた者を助けられることを。主はその右の手による大いなる勝利をもって／その聖なる天から彼に答えられるであろう。」(詩篇20:6)

詩篇の作者の人生と同じように、神は私たちの人生において中心的な位置を占めなければならない。

詩編 16:8	それはいつも私たちの思いの中にある
詩編 44:8	私たちは常に主を讃え、主を賛美する
詩編 46:1	主は私たちを守り、力となってくださる
詩編47:1	私たちは喜びをもって歓迎する
詩編57:2	私たちは主の恩恵を求めて主に叫ぶ
詩編 62:8	私たちは主の前に心を注ぐ
詩編 82:8	主の正義を求める
詩編 121:7	私たちは、主が悪から私たちを守ってくださることを知っている

詩篇のおかげで、私たちは、たとえ神の姿が見えなくても、神が私たちの声を聞いてくださり、適切な時に私たちの祈りに答えてくださることを知っている（詩3:4; 10:1; 20:5-6）。

神は聖なる宮におられるが、私の側にもおられる（詩11:4; 23:4）。私たちは神の臨在に確信し、安心することができる（詩119:58）。

(木)
詩編の多くの部分に関わった
ダビデについて考えてみましょう。
ダビデと神様の緊密な関係の秘訣は
なんだと思いますか？

「ダビデの詩篇は、罪の自覚と自責の深淵から、最も高められた信仰と神との最も高められた交わりまでのあらゆる経験をうたっている。彼の生涯の記録は、罪がただ恥と災いだけをもたらすものであることを示している。しかし、神の愛と憐れみは、どんな深みにも達し、信仰は、悔い改める魂を引き上げて、神の子としての身分にあずからせることを明らかにする。それは、神のみ言葉の中のすべての確証の中で、神の誠実と正義と神の契約の憐れみに関する最も強力なあかしの1つである。」

E. G.ホワイト　(人類のあけぼの第７３章ダビデの晩年より）